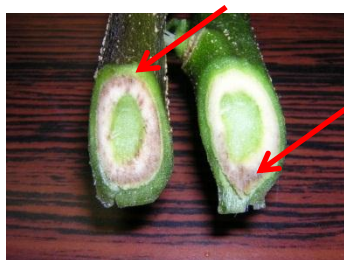


青枯病 (Bacterial wilt)

Ralstonia solanacearum Smith et al.



ナスでの青枯病の発生



トウガラシ茎の褐変(左)と細菌噴出(右)

発生生態

夏場の高温期に、ナス、トマトやトウガラシ等のナス科作物に多く発生する土壌伝染性病害です。根の傷口から侵入し、根や茎の導管内で増殖するため、導管が詰まって植物が給水できなくなり、急に青い葉のまま萎れ、やがて枯死します。土壌中の水の移動やせん定などの管理作業によって、2次伝染が引き起こされます。

防除対策

発病株の茎を切断すると導管部が褐変しており、切口を水に入れると細菌が白濁して噴出することから診断できます。出来るだけ連作を避け、発病ほ場で栽培する場合は、太陽熱や薬剤による土壌消毒、接ぎ木栽培、排水対策などに取り組みましょう。発病株を見つけ次第、根から抜き取りましょう。せん定バサミの消毒も重要です。